

10th PACIFIC RIM YACHT CHALLENGE Tateyama 2008

鶴木 賢治

記念すべき第10回の”PACIFIC RIM YACHT CHALLENGE”が4月29日から我が館山で開催されました。

私の担当は海上でのレース運営なので本部船から見たところを中心に振り返りたいと思います。

4月27日に葉山マリーナヨットクラブよりチャーターした、国際マッチレースに使用しているYAMAHA30Sを6艇回航しました。船形港に皆で手分けして繋留し、準備を整えました。

4月30日10:00から開会式、来賓諸氏の歓迎挨拶、参加各国のキャプテンによる挨拶と滞りなくしかも和やかに行われ、続いて選手は若潮ホールにてレースのブリーフィングを行い、キャプテンによるボートドロ（レース艇の割り当て抽選）を行い、使用艇を決めました。#1赤・AUS（オーストラリア）、#2青・ニュージーランド（NZL）、#3黄・ロシア（RUS）、#4緑・日本（JPN）、#5ピンク・アメリカ（USA）、#6水色・カナダ（CAN）となりました。

午後から公式練習を行い、各国とも自艇を艤装し颯爽と鏡が浦（館山湾）へ乗り出してゆきました。第1レースのスタートは14:00と決定する。

第1レース、風向230で多少触れ回る。風速12~15ノット。トライアングルコース。

14:00レース旗降下スタート。CAN・USAがライン真ん中下よりで飛び出す。NZL・AUSは上よりからスタート。JPNが高さが足りず遅れ気味のスタートで、スピードが出ていない。RUSはラインに対して高さはあったが、タイミングが遅い。なかなかラインに横並び一線とはいかない。まずNZLがタック、USA・CANもタックしてポートに。その後中間でAUSがタック。JPN・RUSはそのままスターボアを維持。RUSは動きたくても風上にJPNがいて動けない。その後JPNがタックするや即RUSもタックする。この2艇はすでに遅れ気味になっている。先行の4艇はタックを返しスターボアで押さえあいになっている。その中ではAUSが中間で遅れている。JPNはタック後のジブの引き込みが悪くスピードに乗れない。RUSに風下突破される。本部船一同がっかりしてしまう。第1

上をCANがきれいに回航し、スピンの上がる。USA・AUS・NZL・JPN・RUSの順で回航する。スピンランはJPNが好調で2艇を追い抜く。NZLがどうしたことか艇速が伸びない。ジャイブマーク回航はCAN・USA・JPN・AUS・NZL・RUS順で回航。下マークはCANがダントツぎみでラインもきれいにクローズのコースに乗る。USA・AUSが続き、JPNは4位に落ちている。NZLはハリヤードトラブルかスピンの降らない。最後にRUSが大回りで回航していく。先行艇はタックして岸よりへ突っ込み、JPNはポートのレグを伸ばし、一番上でタックし岸よりへと向かう。この後は先行艇が後ろを押さえながらのレースとなり、フィニッシュは1位CAN, 2位USA, 3位AUS, 4位JPN, 5位NZL, 6位RUSでした。1位と6位の差はおよそ4分でした。

第2レース、風向220中心に触れ回り。風速13~16ノット。トライアングルコース。

15:20レース旗掲揚。多少レース艇が散らばっているような気がしている。スタートラインは風下有利となっている。すかさずCANがエンドマークめがけてスタートラインの少し下を流している。USAがその下から突き上げている。NZLはポートでラインに上がりスターボーに返し3艇一団となり、位置の取り合いをしている。AUSもその後を追う。JPNは遅れながらも信号後早めにタックし沖よりへ向かう。風が上マーク付近は南よりに振れているので岸よりの良いのだが残念。RUSはラインの一番上ではあるが、遅れている。CANとUSAがスターボーでひたすら岸へと突っ込む。さすがである。NZLとAUSがいつものことであるが競っている。岸組と沖組にきれいに分かれている。JPNは沖組ではトップを走っている。CANとUSAは本部船からはジャスコの目の前まで行ったように見えている。水深は大丈夫かひそかに心配をしていた。それぞれタックを繰り返しながら上マークへ向かう。それぞれのメインセールに識別のため色がついているので、JPNの緑が黄色の前を通った、赤の前を通ったと本部線の中は一喜一憂大騒ぎでした。そうするうちにランシーバーが私の名前を呼んでいる。出てみるとマークボートの吉田が「もしかすると、このまま行くとJPNにトップの目がありますよ」と言う。「風が振れなきゃね!」と返事をしつつも、「このまま振れないでくれ!」と念じていました。しかし、その後の振れで黄色のRUSが良い風を拾って突然2位へと浮上してきました。上マークは、1位CAN, 2位RUS, 3位NZL, 4位USA, 5位JPN, 6位AUSの順で回航する。接近戦となり、見ているほうもハラハラの

し通して、AUSがスピンランで後ろからのいい風をつかんでJPNに迫る。JPNは逆転され6位に陥落。しかしJPNチームは村上スキッパー以下頑張り、抜き返し5位へ。ジャイブマークは1位CANがまたもやダントツでジャイブをきれいに決めて回航する。2位NZLがヨット大国の面目にかけてこれを追う。3位はこのレース好調のRUS、4位USA、5・6位はJPNが内、AUSが外でほぼ同時にジャイブする。「あ！！トラブった！」AUSがスピンをフォアステーに絡ませたのを見て、ついにはたなくも大声を上げてしまう。本部船に同乗しているUSAチームの団長であるジョー・バートレットが私の方を見てにやにやしている。いかん！いかん！コミッテイーが他チームの失敗を喜んでいては。スピンのダメージはどの程度なのか心配になってくる。USAがNZLをかわしにかかっている。下マークでは、1位CAN、スタートから変わらず。2位USA、3位5秒差でNZL、4位RUS、5位JPN、6位スピントラブルのまま上れず。スキッパーは仕方なく、バウを強引に上へ向ける。心中はよくわかる、くやしいよなあ！ジブも揚げられずメインだけで上へ向かう。250mほど走ってようやくトラブル解消、ジブが揚がる。沖よりのコースを上マークへ向かう。NZLはUSAの風上に出たくて即タック、懸命に上している。JPNがタックして岸に向かうと、そのかなり上でNZLもタックして岸へと向かう。その沖ではCANが逃がさじ、とばかりタックする。USAとRUSはポートで沖へと向かって走る。JPNがとりあえず一番岸よりでタックする。もう少しギャンブルしてもいいのにと想着て見ている。とUSAがNZLとRUSを抑えるようにタックして岸へと走る。わがJPNはタックを繰り返すうちに良く頑張ってRUSを逆転して4位に上がる。第2上では、1位CAN、2位USA、3位NZL、4位JPN、5位RUS、6位トップからおよそ4分差でAUSが回航。CANは回航と同時にするとスピンの揚がる。「シー、うまいもんだなー！」と感心する。ジョーはUSAが連続して2位（CANにしてやられたので）なので、面白くなさそうな顔をしている。そういえば、スタート前にUSA艇がそばを通ったとき、英語で（当たり前ですよ）何かハッパを（口調で判断）掛けていたなと思い出す。しかも3位で回ったNZLがスピンでブランケに入れているよう。CANがジャイブをきれいに決める。NZLの後すぐUSAがジャイブする。かなり熾烈な争いになっている様子です。CANが一番岸よりを走り、NZLとUSAは100mほど沖よりで接戦の最中、これでCANはますます楽になる。JPNとRUSも結構競っているように見える。JPNがジャイブしてトラブル、スピンのフォアステーに絡んだようだ。RUSはここぞとばかり

り後を追う。ますます接近するも、RUSもジャイブでスピントラブル。内心ではほっとして何とか逃げ切ってくれと祈るような気持ちで見守る。最後はスピンを降ろしジブを揚げて逃げ切る。フィニッシュは1位CAN, 2位NZL, 3位USA、4位JPN, 5位RUS, 6位良く追いつけたAUSでした。およそ12分の大差となりました。

5月1日 第3レース 風向210~220 風速13~15ノット ソーセージ2回

12:55クラブ旗掲揚。13:00スタート。風向はあくまで本部船付近のもの。昨日USA艇はCANに連敗したので、団長のジョーもレース艇に乗り込み、雪辱を期している様子。今日もスタートラインは多少風下有利に設定。CAN, USA, JPNが下へと流して行く。NZLがポートで来て、ライン下手でスターボーヘタック。AUSも少し遅れて同じようにアプローチして来る。RUSが5秒遅れていたが、ほぼきれいにラインを切る。NZLがすぐに動いてタックしてきてが、スピードに折れない。どうもハードトリムのように見受けられる。NZL以外の各艇はポートでよく走っている。スターボーへ返したNZLは艇群の後ろを抜けて、上でタックしポートへ。AUSもタックしてスターボーで4艇の後ろを抜けていく。USA, JPNはスターボーへとタックする。NZL, AUSはさらにタックを返す。各チームとも激しく動く中で上マークのレイラインへと近付く。トップはまたもやCANのようだ。USA, AUS, JPN, NZLがRUSの前をポートで抜けてタック、最後はRUSだ。その順で第1上を回航する。スピランに移った各チームは、それぞれ目の前の敵と激しく戦い始める。RUSは1ポイントリーフを解除してフルメインにしてスピンを揚げる。3位AUSにせまったJPNは、ブランケットしていったんは3位に浮上する。しかしAUSも黙って引っ込みはしない。下マークでは1位CAN, 2位USA, 3位AUS, 4位JPN, 5位NZL, 6位RUSの順となる。トップとの差は3分ほどです。下マークを回ったCANはタックしてスターボーにし、後続を押さえにかかると。全く憎らしいくらいのレース運びです。2位のUSA, 3位のAUSが回るとすかさずタックしてポートに返す。JPN, NZLがスターボーで岸よりに走っても、下位は関係ないとばかりである。そして第2上のレイラインに乗るやすっと回航して、さっとスピスが揚がる。2位USA, 3位良く踏ん張ったJPN, 4位NZL、5位AUS, 6位RUSの順で回航する。風下の本部船から見ると6艇のスピスがカラフルに展開して美しい景色です。速く来い！来い！緑色（JPNの色）。で、そ

のままの順位を保ってフィニッシュする。トップと6位の差は4分強でした。

第4レース 風向190~210 風速13~15ノット ソーセージ2回
14:05のスタート。ラインは少し下有利にしてあるので、50秒前にUSAがラインに入れてくる。NZLは1分前にポートで上ってきてタックしてスターボーに返しラインにはいる。25秒前、1番下が(1番前になる位置)CAN, NZL, USAが競っている。そのすぐうしろがJPN。AUSがポートでアプローチしてきてラインすぐ下でタックしJPNの背後に付ける。そのうしろにRUS。今までの中でも一番きれいにそろったスタートとなる。全チームそのままスターボーで岸へと向かう。AUSが最初にタックして沖へ。JPNも岸へ突っ込んだ後タックしてポートへと返す。CAN, USA, NZL, RUSはさらにスターボーで岸へと突っ込む。RUSがタックしポートに返し沖へと向かう。AUSがさらにタックしてスターボーに返して岸よりへと向かう。その前をJPNがポートで楽に横切る。調子いいように見えるけど、ここは岸よりコースなんですがねー。岸いっぱい突っ込んだCAN, USA, NZLも順にタックして上マークへと向かう。JPNはRUSを従えてポートで沖へと向かっており、その時点で1番沖でタックしスターボーにする。RUSもその後ろでタックしてスターボーに返す。AUSもスターボーで走っており、またもや岸と沖に分かれています。第1上マークに向かっているJPNのはるか前方でCANがタックし、マークへ向かう。1位CAN, 2位USA, 3位NZL, 4位JPN, 5位AUS, 6位RUSの順位で回航する。沖組みのトップではありましたが、やはり風の振れは岸でした。スピンランでUSAがCANを逆転しトップに躍り出る。団長ジョーの効果が出ましたか。下マーク手前でCANがUSAの内を取ろうとしたのかラフする。しかしUSAは動じない。トップで回航、15秒送れてCAN, さらに15秒遅れてNZLと接戦です。CANが最初にタックし、スターボーに、直ちにUSAも抑えてタックする。NZLはフレッシュウインドを求めて少しタイミングを遅らせてタックする。JPNは2分40秒遅れて4位、さらに1分遅れてAUSが回航する。RUSが15秒遅れで続いて回航する。JPNがタックして岸へと向かう。AUSとRUSはそのままポートで沖だしする。最初のレグで遅れたコースを再度引くのはどんなものでしょうかね?風が館山湾特有のシフトをする中でNZLは良く風を拾って、トップへと躍り出る。USAはとにかくCANを抑えまくっているようだ。第2上マーク通過は、1位NZL, 45秒差で2位US

A、41秒差で3位CAN, 4位JPNはさらに2分遅れ、5位AUSは55秒差、6位RUSはさらに1分45秒差で、上位と下位の差はさらに開いてしまいました。USAとCANはすごいデッドヒートを展開しつつフィニッシュラインへと向かう。最後のジャイブでUSAがミスをする、CANが猛烈に突っ込んできて、本部船も間違えては大変と、総勢で見守りました。1位NZL, 1分46秒差で2位USA, 2秒差で3位CAN, 1分10秒遅れて4位JPN, 14秒差で5位AUS, 1分56秒差で6位RUSでした。このレースが一番見ごたえのあるレースでした。4レースを消化したところで、3レースストップのCANの優勝は確定的となりました。2位争いはNZLとUSAが競っています。4位のJPNもほぼ決まり。5位AUS, 6位のRUSも決まりでしょう。

5月2日 第5レース 風向40~60 風速15~20ノット インショア14NM 昨日までの晴天・温暖とは打って変わって雨天・寒冷で時々標記を上回るブローが吹き抜けていく中でのレースとなりました。朝のブリーフィングで、セールのコンディションは“B”としました。メインセールは1ポイントリーフ、ジブ、スピネーカーです。フリースタート（スピン可能）で風下およそ2マイルほどのマークをクロック回りで、湾外の航路ブイを回航し、マークをアंकロ回りでフィニッシュライン流し込みのおよそ14NMのレースです。スタート40秒前からCANとUSAが位置取りを争っています。NZLとAUS・JPNも負けずと競っています。RUSがやはり遅れ気味です。スタート後CAN・NZL・USAが競ってスピンを揚げるなかAUS・JPNは落ち着いて？ジブで走っている。RUSはスピンは使わないのかな？徐々に風がかすかではあるものの落ちていっていると思われ、その中でやはりスピンは使わざるを得ないようです。CANが先行するなか、NZLと2・3位を争って頑張っていたUSAが、ハリヤードトラブルでスピスが降りず、ダンペに陥落する。マーク回航後にCANとNZLのロストポジションと思われるコースミスでトップに立ったJPNも、大房岬のブラケットの影響を少し受けてCANに抜かれてしまう。沖のブイでは1位CAN, 2位JPN, 3位NZL, 4位RUS, 5位AUS, 6位USAの順で回航する。そこから湾内のマークまでJPNはNZLに迫られながらも何とかCANに続いて2位で回航しましたが、上りのレグのNZLのウェイトに（本当はうまさなのですが）してやられました。RUSはJPNチームにくっついて走ったのでうまく走り、よく健闘しました。マーク回航後のク

ローズのコースに入ってもCANのうまさは揺るがず、トップフィニッシュでした。2位には前記の通り体重に勝るNZLが力に任せてJPNを逆転してはいりました。しかし、コースどりや、タックする位置を見ていると、やはりさすが王国だなと思わせるものがありました。3位JPNは最終マークまではよく健闘しましたが、力負けしたことと、そのことによる余裕の無さで、コースミスや位置どりと、最後の上りで1番してはいけないオーバーセールで、フィニッシュライン前でNZLに屈しました。4位RUSはJPNチーム（地元チーム）についてきてよく走りました。5位AUS。6位USAはスピントラブルで一時はダンペに落ちたものの、最後の上りではあわやAUSを大逆転か？と思わせる実力を見せました。しかし、レース終了後にUSAからRUSに対して抗議が出されました。定員（チーム5名+海技免許所持者1名）オーバーだったというのです。第1レース開始前にも2名オーバーの申請があり、レース開始前にボートに降ろしました。今回は確認を怠ったコミッティーにも責任がありました。それは事実だったようですが、USAとRUSで話し合い、正式に抗議書（ISAFの認定書式があります）は提出されませんでした。その後も次のレースは、RUSのみ5名で他チームは6名を認めるとのもう仕入れが各国チームからありましたが、それは“NO”と断りました。（NOと言える日本人でした、ゴメンナサイ石原慎太郎都知事）

5月3日 今日三浦半島の葉山マリーナよりお借りしたレース艇を返還するため、レース形式にして、廻航することです。城ヶ島の南岸の岩場、諸磯・油壺の岩場と定置網を避けるために、南西沖ブイをスターボーに見て、小網代湾沖のブイとシーボニアの黒岩から拝借した38フィートのヨット「MAPLE」の間をいったんフィニッシュとして、葉山マリーナまで案内するコースです。私はブリーフィングの下打ち合わせをして、メンバーの岡野と車でフェリーを使って三浦半島・小網代のシーボニアYCに駆けつけ、「MAPLE」を下架しました。オーナーの黒岩と手伝いのメンバーを待って出港し、フィニッシュラインを設定しました。50mの水深と雨交じりの北北東の強風・引き潮の海流の中、アンカーリングは結構大変でした。手伝いの皆様本当にお疲れ様でした。レースは結局1位CAN, 2位USA, 3位NZL, 4位AUS, 5位JPN, 6位RUSでした。フィニッシュ後は三戸浜・長浜沖の定置網、佐島沖の亀城礁・灯台および定置網を避けながら、しかも連休中のそれぞれのレース中のヨットの大艇団やクルージング中

のヨットを避けなければなりません。雨で視界が極端に悪くなり、先行艇から網や岩の報告・問合せが携帯電話が鳴りっぱなしになる状態に回答しながら、大急ぎでエンジンを吹かして追いかけてきました。なれない人には葉山マリーナの入り口はとても分かりにくく、6艇の前に出て名島の岩・灯台を見ながら、セールを降ろし、整理をするのを待って、入港しました。そこには葉山マリーナの皆様が暖かく迎えてくださりまして、大変うれしく思いました。本当に皆様のおかげで無事に PACIFIC RIM YACHT CHALLENGE のレースが終了できましたことに感謝したいと思います。有難うございました。選手の皆様および後援・ご協力いただいた皆様、ご理解をいただいてストレスを我慢してくださった皆様、有難うございました。そしてお疲れ様でした。

総合成績・写真およびその他関連事項は、下記リンクをごらんください。

NPO館山外洋ヨットクラブホームページ

<http://www.toyc.net/>

PHOTO ALBUMS

<http://picasaweb.google.com/toyc2008>

さて、2年後はカナダ・ビクトリア市・ロイヤルビクトリアヨットクラブが会場です。みんなで行きましょう。

* 文中敬称は省略させていただきました。すみません。